

経営比較分析表（平成28年度決算）

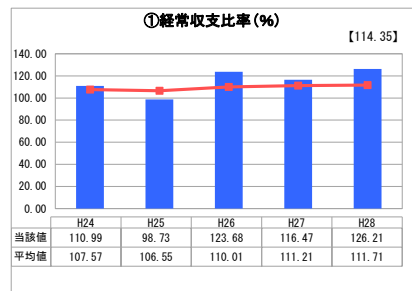
神奈川県 開成町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	66.31	99.89	1,512	

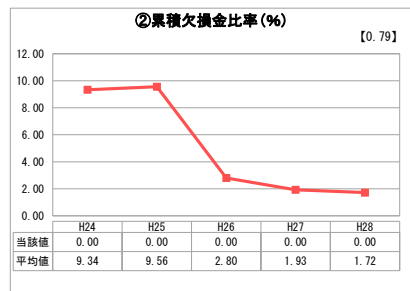
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
17,273	6.55	2,637.10
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
17,268	6.65	2,596.69

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成28年度全国平均

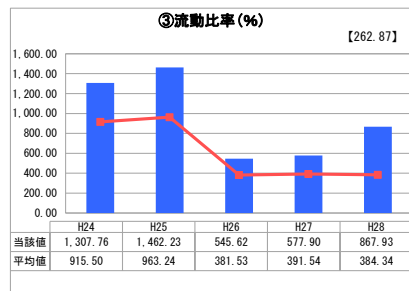
1. 経営の健全性・効率性



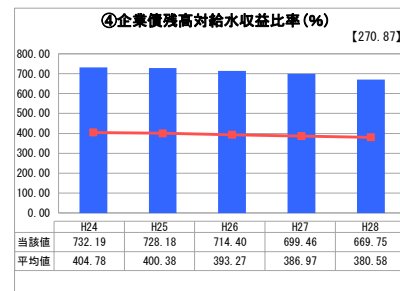
「経常損益」



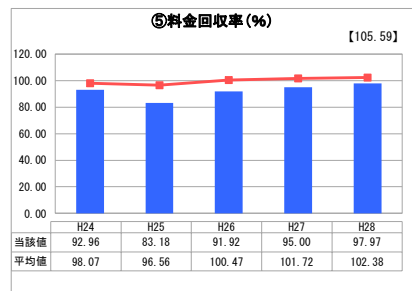
「累積欠損」



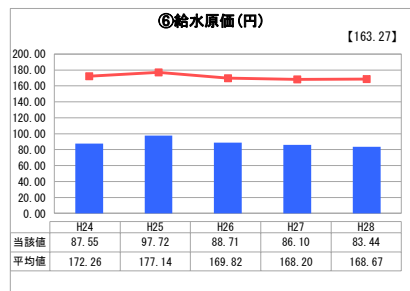
「支払能力」



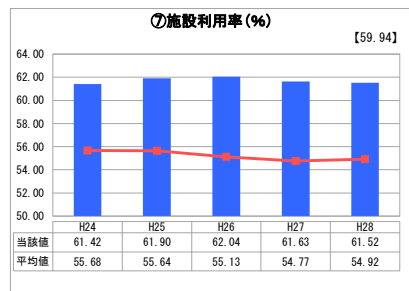
「債務残高」



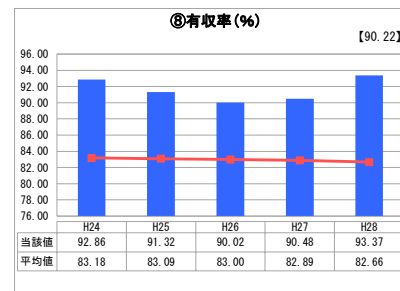
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

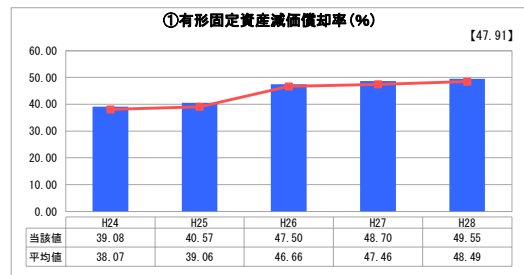


「施設の効率性」

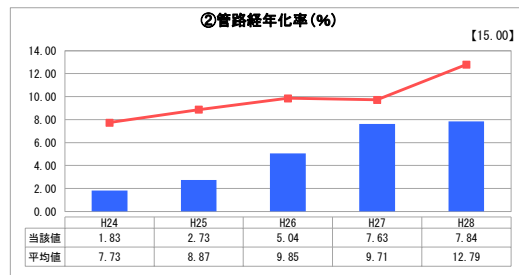


「供給した配水量の効率性」

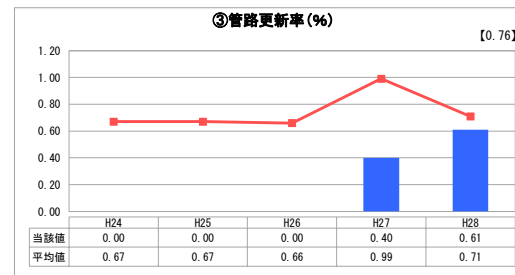
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率100%以上、累積欠損比率0%、流動比率100%以上であり、現状においては受託工事収益などの収入増もあり総合的な経営状況は良好です。

しかしながら、企業債残高対給水収益収支率は類似団体内で高い水準となっていることや料金回収率が100%を下回るなどから、経営の健全性の見直しを図るため、企業債の利用を制限するとともに平成29年度から水道料金の改定を実施しました。また、有収率は類似団体内では高い水準となっているため引き続き効率的に配水できるよう漏水調査を行い対応を図っていきます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率が類似団体内で高い水準になっていることや管路経年化率の上昇により施設の老朽化が進んでおり、管路更新率が類似団体内で低くなっていることから、必要な管路更新が十分に進んでいないことが分析されます。

今後、安定した配水を行うため自然災害等に備えた重要管の耐震を計画的に進めていく必要があります。

全体総括

施設の老朽化が進んでいることを踏まえ、管路更新を含む投資計画の策定と漏水対策等による維持管理費の削減に努めます。

また、平成29年度から実施した水道料金の改定による料金回収率や受託工事収益の推移を注視しながら経営状況の把握に努めていきます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。